盛岡タイムス　2023年2月24日付

P734-1

成長実感発表会でプレゼン

盛岡の魅力などテーマに

第一学院高盛岡キャンパス

通信制高校の第一学院高校盛岡キャンパス（桑江良章校長、生徒140人）は22日、盛岡市中ノ橋通のプラザおでってで、「成長実感発表会」を開いた。1、2年による10グループが、盛岡市の魅力、聴覚障害や視覚障害の理解、夜間中学、美容など多彩なテーマでプレゼンテーションを実施。英語スピーチ、吹奏楽サークルの演奏もあった。

生徒たちがグループで協力した調べ学習や学校生活で注力したことを披露する機会として開催し、今回で4年目。発表により成長を実感し、保護者や友人、教員からのフィードバックを通してさらなる成長も目指す。

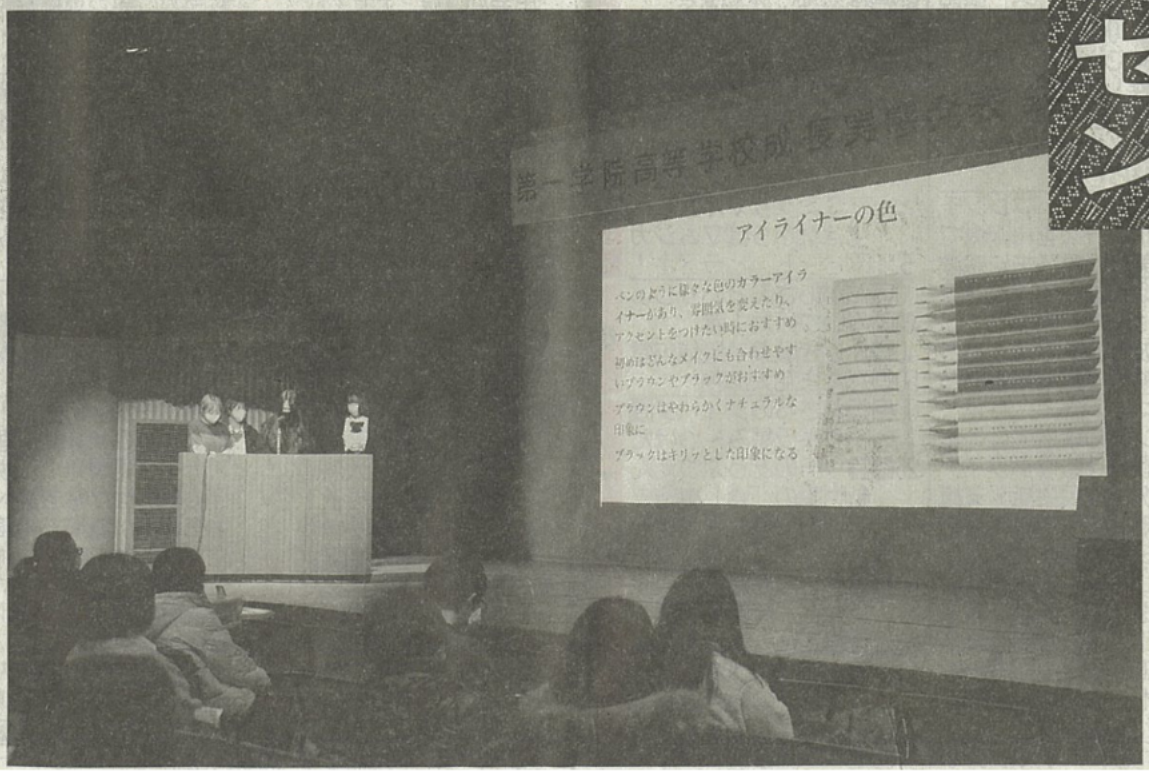
「盛岡PR」グループは、1月に米国ニューヨーク・タイムズ紙で盛岡市が「2023年に行くべき52カ所」に選ばれたことから、同市の魅力を調査。食文化や偉人、歴史を感じられる建物などを紹介した。

記事で挙げられた「歩いて楽しめる」「複数の川が街なかを流れている」などの魅力に、保護者や友人、教員からのフィードバックを通してさらなる成長も目指す。

「盛岡PR」グループは、1月に米国ニューヨーク・タイムズ紙で盛岡市が「2023年に行くべき52カ所」に選ばれたことから、同市の魅力を調査。食は「盛岡について聞かれたとき、即答できないのは悲しい。自分たちの住んでいる場所の魅力を伝える力を付けることは重要で、とてもすてきな発表」と評された。

同グループの田中祐哉さん（1年）は「訪れる人だけでなく、市民にも魅力を知ってもらいたいという思いでまとめた。盛岡出身でも知らなかったこともあり、（岩手銀行）赤レンガ館を作った人（＝辰野金吾）が東京駅を作った人だったことに驚いた」と発見を楽しむ。

桑江校長は「教科書に載っていないことでも、いろいろな社会の課題に気付き、自分が将来やるべきことを考えられたら」と期待を込めた。



各グループが多彩なテーマで学びの成果を発表した「成長実感発表会」